

# 日本周辺国際魚類資源調査

(要 約)

田中 淳也・小泉 広明・今村 豊\*

## 目 的

国連海洋法条約に基づき、公海を回遊しているマグロ類及びサメ類の科学的データを完備するための調査を行う。

## 材料と方法

### (1) 漁獲状況調査

#### ① クロマグロ

次の漁場等で水揚げ伝票から漁獲月日、漁法、銘柄、体重等のデータを収集した。

日本海 新深浦町漁業協同組合岩崎支所及び深浦漁業協同組合

津軽海峡 三厩村漁業協同組合

太平洋 尻労漁業協同組合、六ヶ所村海水漁業協同組合、八戸みなと漁業協同組合及び(株)八戸魚市場

#### ② サメ類

八戸地区(八戸みなと漁業協同組合及び(株)八戸魚市場)にて漁獲月日、漁法、銘柄、体重のデータを水揚げ伝票から収集した。

### (2) 生物測定調査

クロマグロについて、深浦漁業協同組合及び三厩村漁業協同組合にて、漁獲状況調査に加え、1尾毎の体重データ等を収集した。

## 結 果

### (1) クロマグロ

#### ① 漁獲推移

漁協別(支所、市場含む)クロマグロ漁獲量の経年推移を図1に示した。平成21年の漁獲量は499トン(前年531トン)と前年の約94%だった。また、日本海(新深浦町漁協岩崎支所、深浦漁協)では346トンと前年(283トン)の約1.2倍、津軽海峡(三厩村漁協)では93トンと前年(124トン)の約75%、太平洋(尻労漁協、六ヶ所村海水漁協、八戸みなと漁協、(株)八戸魚市場)では60トンと前年(124トン)の約48%であった。

平成21年の海域別月別漁獲量の推移を図2に示した。日本海では6月と9月、太平洋では6月にピークがあった。津軽海峡は、8月にピークがあった。

#### ② 生物測定調査結果

三厩村漁協におけるクロマグロの生物測定調査結果を図3に示した。魚体サイズは広い範囲に及び、尾叉長のモードは100cm台で、体重のモードは18kg台であった。

発表誌:平成21年度日本周辺国際魚類資源調査報告書、独立行政法人水産総合研究センター、2010年3月

\*青森県農林水産部水産局水産振興課

深浦漁協におけるクロマグロの体重測定の結果を図4に示した。体重のモードは4kg台だった。

(2) サメ類

○ 漁獲推移

八戸地区のサメ類漁獲量の経年推移を図5に示した。平成21年の漁獲量は621トンと前年の464トンの約1.3倍であった。

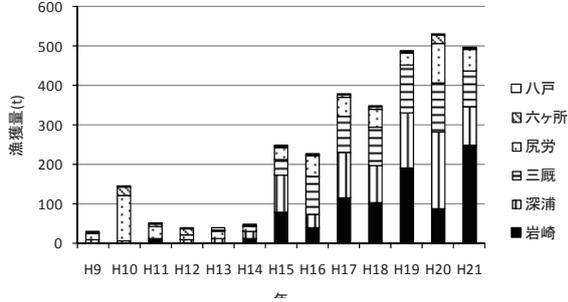


図1 漁協別クロマグロ漁獲量経年推移

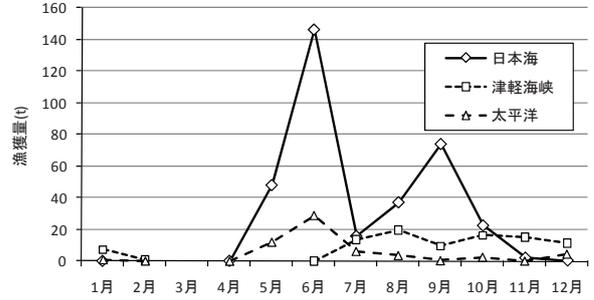


図2 H21年海域別クロマグロ漁獲量経月推移

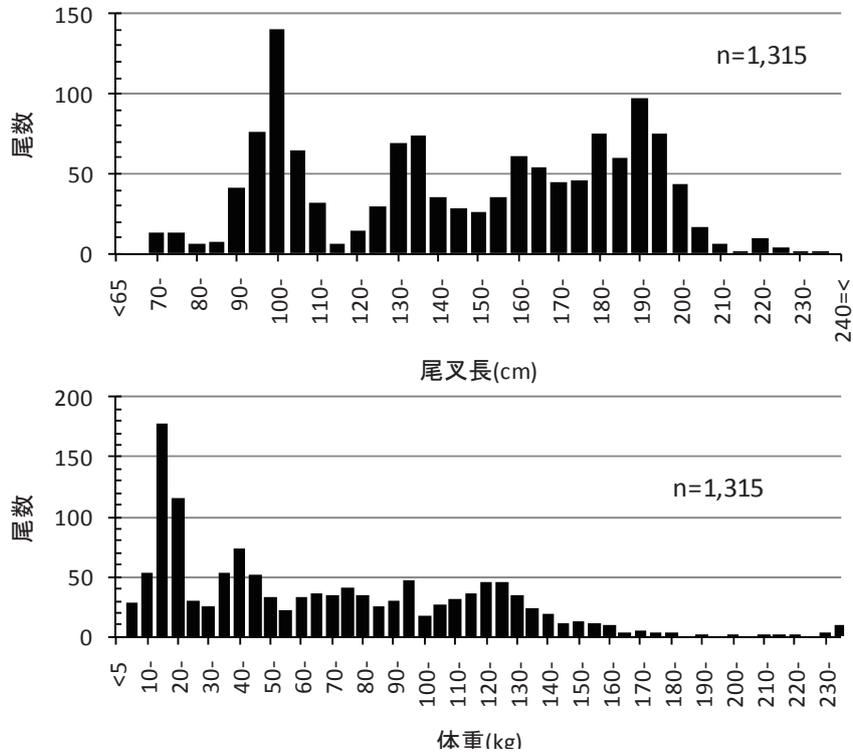


図3 三厩村漁協漁獲クロマグロの組成(上：尾叉長、下：体重)

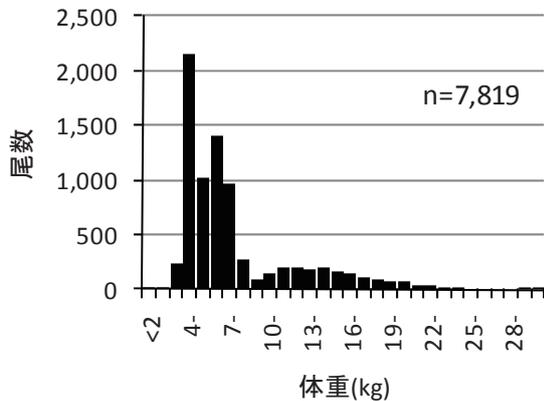


図4 深浦漁協漁獲クロマグロ体重組成

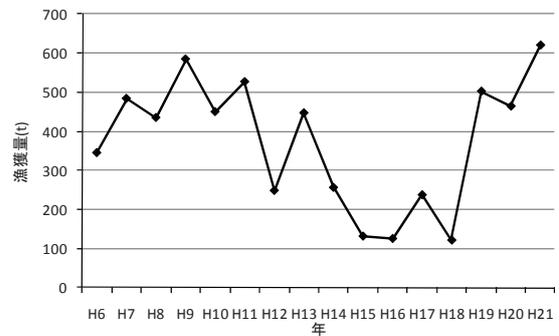


図5 八戸地区サメ類漁獲経年推移